一休宗純筆「梅画賛」　解説

（原文）

看々曹源通要津導涓宗海
是何人氷消瓦解三千界一片
開花一片春
　康正二載　黄鐘仲澣日狂雲懶衲一休子宗純

（読み下し）

看看曹源　要津に通ず
涓を宗海に導くは　是れ何人ぞ
氷消瓦解　三千界
一片の開花　一片の春
　康正二載　黄鐘　仲澣日
　狂雲懶衲一休子宗純

（大意）

曹源（中国北宋時代の天台徳詔の開悟に連なっていたことが知られる僧）をよく見よ。彼は迷いの海を越えて、悟りの彼岸にわたる術（仏法）に通じている。

《曹源の作った、一滴の水の変幻に仏法の心を知る詩句を思い浮かべながら》小さな水の流れが海に導かれるように、衆生を導くことの出来る人は、誰であろうか。

瓦が砕けて土に還るように、この広い宇宙では《水が凍って出来る》すべての氷が融けて流れるほどの春気が巡ってきて、ここにも一片の梅が開こうとしている。

康正二年（一四五六）黄鐘（旧暦十一月、現在の十二月）仲澣日（中旬）狂雲懶衲一休子宗純（一休和尚の号狂雲子のこと懶衲はなまけものの禅僧。一休が自分のことをへりくだって表現している。）